

NAGATAのチカラ Vol.5

特集 神戸市長田区番町地区をテーマにした地域研究

こんばんは。夜勉（よるべん）です。

－夜間学校を学ぶ夜の勉強会－

水本 浩典

参考資料 旧西野幼稚園跡地残留丸山中学校西野分校資料仮目録

神戸市の夜学校に関する一考察一戦前の夜間教育の役割一

丁井 美紀

夜間中学を考える一次田先生の講義に導かれて－

寺田 朱李

参考資料 高野雅夫編著『자립』目次（寺田私用版）

参考資料 高野雅夫編著『자립』所載夜間中学索引（寺田私用版）

兵庫県立湊川高校が実践した「生徒を見捨てない」教育

－地域性を重視した教育とは－

竹下 珠奈

地域とともに「学ぶ」湊川高校の国際交流学習会の特色

田中 結芽

識字教室・麦豆教室とひまわりの会を比較する

藤田 真樹

字名からみた長田区域の歴史地理的考察

－近代行政文書中の記載に着目して－

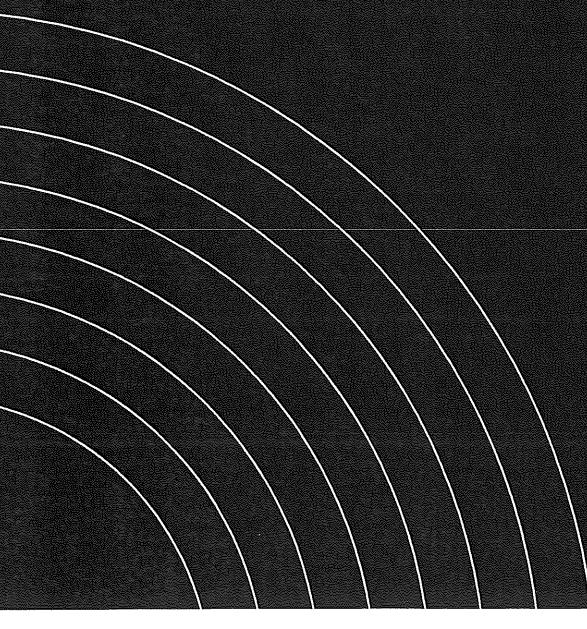
關 陸稔

参考資料 『兵庫県八部郡誌』にみえる字名・地名表

参考資料 神戸市長田区現行町名と新町名創出・字名一覧表

2018年度神戸学院大学地域研究長田センター活動報告書

CARD



こんばんは。夜勉（よるべん）です。

—夜間学校を学ぶ夜の勉強会—

人文学科 教授 水本 浩典

はじめに

夜勉は、毎週、夕方5時から9時までやってます。

最初は、大学院生のための勉強会でした。それも、日清戦争に従軍した兵士が書いた自筆の従軍日記を読む作業を始めたのがきっかけです。

2007年度から始めた「近代従軍日記研究会」は、面白いどうわさを聞きつけた学部生も加わって毎週夜遅くまで試行錯誤を繰り返しながらの勉強でした。水本も近代史を研究分野にしていないわけで、よくわからない。参加する学生たちも、日清戦争そのものを知らない。まして、学部授業でも教わることがないテーマでした。いまでは笑い話ですが、ある兵士の従軍日記のなかに、「征清軍」とある言葉を捉えて、当時、日清戦争を「征清」戦争と称していたのだ！などという大間違を犯しながら、一歩一歩知らない事実を解きほぐし理解していく。その過程が楽しい。まさに、近代の兵士が書いた従軍日記を使った「従軍日記事始」（「蘭学事始」をもじって）でした。

この勉強会で、学生とともに学ぶ。先達としての教師对学生といった立場ではなく、いっしょに学ぶ勉強手法を身に付けることができました。

水本は2003年度から始めていた阪神・淡路大震災時に作成された震災資料の保存と分析を、この勉強会の手法を使って開始しました（2010年度から）。称して「震災資料研究会」です。この勉強会は、2018年度もずっと継続してやっています。

~1995年の阪神・淡路大震災で甚大な被害を受けた神戸市長田区の震災資料を調査している過程で、街のいたるところにお地蔵さんの祠が祀られていることに着目して、学生たちと「長田お地蔵さんプロジェクト（NJP）」を立ち上げ、神戸市長田区、神戸市兵庫区、明石市、高砂市など、参加学生の実家があるフィールド調査域も含めてまとめる作業もしました。

その過程で、神戸市長田区内でも特に活気ある地蔵盆に出会ったのが、神戸市長田区番町地区の地蔵盆でした。そして、番町地区に隣接して兵庫県立湊川高校があり、三番町には1995年まで西野分校という夜間中学があった。そして、現在も続く識字教室「ひまわりの会」が番町地区にある長田公民館で毎週行われている。夜間高校、夜間中学、そして、自主夜間中学とも謂われる「ひまわりの会」の存在が、長田区内の夜間学校をテーマに勉強を深めていきたいと考えるになったきっかけでした。

そして、2016年4月からは「長田夜間学校勉強会（略して、「夜勉」です）」を始めました。後でも述べますが、神戸の夜間中学である丸山中学校西野分校関係資料を発見し、その整理作業を行うなかで、夜間学校・夜間高校・識字教室といった長田区内にある夜の学校をテーマに、次第に進化していった「学び」の集まりです。2018年度も昨年度に続き、夜間学校をテーマに勉強を続けています。

ここで、西野分校関係資料に注目した経緯を簡単に紹介しておきます。

長田区三番町にあった神戸市立西野幼稚園跡地に、西野分校関係資料が残されていました。西野分校は、神戸市内に2つある夜間中学の一つです（あと一つは、神戸市立兵庫中学校北分校です）。

夜間中学とは何か。制度も、実情も、教育内容も、最初はほんとうに勉強不足でした。参考までに、丸山中学校西野分校の歴史を簡単にまとめておきます。

兵庫県下（日本中でも、最も古い創設になります）で最も古く設立された夜間中学のひとつです。夜間中学は、正式には、○○中学校夜間学級といいます。二部または分校として制度上位置付けられている夜間中学もあります。兵庫県内に3校ある夜間中学だけが、「分校」制度を採用しています。

①神戸市立丸山中学校西野分校（1950年開設）

所在地：神戸市須磨区の太田中学校内に併設

②神戸市立兵庫中学校北分校（1976年開設）

所在地：兵庫区の兵庫中学校に併設

③尼崎市立成良中学校琴城分校（1976年開設）

所在地：尼崎市内の明城児童ホーム・明城こどもクラブ施設内に併設

このうち①の夜間中学・西野分校は、元々長田区にあった学校でした。

1995年1月まで、長田区三番町の神戸市立西野幼稚園の2階を使って勉強していました。そして、

1995年1月17日の兵庫県南部地震で建物が全壊！

1995年2月 西野幼稚園建物解体撤去

以後、校庭でテント教室→近くの神戸市立水木小学校で授業再開→須磨区の太田中学校へ移転しました。

今も空き地のままになっている元の西野幼稚園跡地に1枚だけ残された南側外壁に隣接する倉庫内に、「西野幼稚園跡地残留西野分校関係資料」が、無残に水浸し・カビまみれの状態で残されていました。

西野幼稚園遊戯室南側外壁は、1995年2月の解体作業の途中で中断したまま放置されています。まさに神戸市内では数少ない震災被害を今に伝える震災モニュメントと言えます。



図1 23年前の西野幼稚園解体工事が最後の壁1枚残して中断したままの状態



図2 調査時の無残に荒らされた倉庫内の様子

神戸市教育委員会の了解のもと、学生とともに現地調査・搬出・大学への搬入・整理作業をしました。この作業を通じて、学生たちの主体的なアプローチを導き出し、夜勉の学び発見につながりました。西野分校関係資料の整理・分類・内容把握などをゼミ生の一人といっしょにやっていった成果を、その学生が卒業論文としてまとめました。

◆山本穂乃佳「丸山中学校西野分校関係資料の研究－神戸市立西野幼稚園跡地残留資料を中心にして－」(2017年度人文学部提出)

学生と共に資料を整理し、未知の教育＝夜間中学の教育方法と具体的な教育実践にアプローチすることができました（今も整理中です）。未だ整理の途中ですが、一旦、資料箱に収納した残留資料の約半分について仮目録を作成しました。何が残っていたのか、概要

は、最後に添付した仮目録でわかつていただけると思います（残り半分には、様々な教材や雑資料、機器など存在します。取り敢えず資料箱に収納してありますが、未整理の状態です）。

この間の経緯は、水本も「夜間中学・神戸市立丸山中学校西野分校を学ぶ」（『人文学部紀要』38号、2018.3）で詳しく論じました。

2. 夜勉、開始！

いよいよ、本格的に、夜勉、開始！です。

まさに20年以上残骸のように解体が中断した壁の奥に、西野分校関係資料はひとつと放置されていたわけです。まさに震災資料でもある西野分校関係資料を整理し内容を把握する作業をしていくなかで、もっと夜間中学のことを知らなければ、整理もできないことを認識しました。

そのため、2017年度の人文学部特別講義の講師として、奈良市立春日中学校夜間学級の次田哲治先生（前期）と、兵庫県立湊川高校の教員だった登尾明彦先生及び方政雄先生のお二人（後期）を招聘して、夜間中学及び夜間高校の教育実践について学ぶことができました。水本も学生たちと共に机を並べて貴重な勉強をすることができました。3人の先生の授業から、神戸市長田区には、夜間に教育している教育機関や施設があることを知ることができました。

兵庫県立湊川高校は兵庫区北部から長田区を東西に流れる新湊川北縁にあります。湊川高校の川向こう新湊川の南側には、西日本随一と言われた同和地区である番町地区が接しています。この湊川高校では、長年にわたってニューエラ「生徒を見捨てない」教育が実践され、全国でも有数の解放教育の実践校として有名でした。

阪神・淡路大震災で解体され移転を余儀なくされた番町地区にあった神戸市立丸山中学校西野分校は、1950年以来長く夜間教育を実践してきた夜間中学だったので。その貴重な西野分校関係資料が20年以上番地地区の跡地にひっそりと残されていたわけです。資料整理のためにも、より深く夜間中学について知る必要を感じるようになっていきました。

民間の夜間教育の実践施設として識字教室があります。長田区内には震災を契機に、いくつかの識字教室が誕生しました。そのひとつが「ひまわりの会」です。現在も続いている「ひまわりの会」は、元の西野分校のすぐ近くにある長田公民館で毎週続けられています。水本ゼミの数人が、このひまわりの会の支援者として長く参加していました。この特集にも名を連ねています藤田と丁井の2名も卒業まで支援者としてがんばっていました。

いずれも、初めて耳にする夜間高校、夜間中学、識字教室がどのような教育の場なのか、夜勉のメンバーは手さぐりの勉強を開始しました。



図3 膨大な資料（西野分校関係資料、高野資料、震災資料などに囲まれての勉強風景

特別講義の講師として招聘した次田先生から、2017年8月に奈良市の春日中学校夜間学級で開催された第36回夜間中学増設運動全国交流集会(2017年8月26日・27日開催)に学生たちの学びというテーマで発表を要請されました。

夜勉メンバーの学生たちと相談のうえ、大学のなかでの学びを夜間中学の先生方や自主夜間中学の関係者の前で発表することで、より深く勉強ができると考えました。



図4 热気に溢れる交流集会の様子

以下に、発表した6名の夜勉メンバーによる発表用パワーポイント資料を掲載します。メインタイトルは、

「私たちが勉強した夜間中学－次田先生の講義に導かれて－」
です。発表したメンバーは、当時、全員3年生でした。

寺田朱李「次田先生の授業で感じたこと」

藤田真樹「うどん学校と岩井好子先生に出会う」

關 陸稔「高野さんの話はすごかった！」

丁井美紀「西畠保さんから学んだこと」

田中結芽「琴城分校で、差別とは何かを学びました」

竹下珠奈「夜間中学の授業をもっと知りたい」

この8月の春日夜間中学での発表の後、尼崎市立成良中学校琴城分校の大槻政宏先生が、ぜひ、琴城分校でも同じ内容を発表してほしいとの要請を受けて、琴城分校でも発表しました。このような交流は今でも続いている。2018年12月には、水本ゼミ3年生が琴城分校の授業を見学させてもらいました。彼らにとっては、初めて目にする夜間中学の授業でした。